

# 「さればいざたて、アルジュナよ」

新江利彦  
しんえ としひこ  
京都大学助教

ベトナム中部高原の民族混住地域の歴史・文化研究者が二〇一〇年一月にインド・デリー市を訪ねたおり、叙事詩『マハーバーラタ』のクライマックスシーンとして知られるクルクシェートラ平原の古戦場址まで足を伸ばした。ベトナム山地民の叙事詩と『マハーバーラタ』との接点とは。

## クルクシェートラ平原古戦場

二世紀にベトナム中部に建国されたチャンパー王国の祖は、紀元前一〇世紀のマハーバーラタ戦争で滅びたインドのクルク王家（カウラヴァ）のアシユヴァッターマン王子であると、九世紀のサンクリット碑文にいう。史実は定かではないが、ヒンドゥー教の聖典ともされる叙事詩『マハーバーラタ』は、その決戦の場を今のデリー市の北約一〇〇キロメートルのところにあるクルクシェートラ平原であると伝える。同平原は、今は巡礼者のための巨大な沐浴場となっている。

## 善と悪の戦い

デリー出張の直前、おりよくベトナム宗教出版社からサンスクリット原文つきで『マハーバーラタ』の「バガヴァッドギター」の章（ベトナム語訳）が出版された。ベトナム中部に現存するチャンパー王国の後継諸民族は『マハーバーラタ』を失って久しい。この出版はベトナム政府による少数民族宗教保護政策に基づくのではなく、知識人向けの商業目的である。出版社の目論見どおり、筆者は「バガヴァッドギター」を購入し、クルクシェートラの決戦についても一度おさらいをした。『マハーバーラタ』は『ラーマヤナ』と並ぶインド二大神話叙事詩のひとつで、古代インドのパラタ王家からわかれたクルク王家とパインドウ王家の内戦の淵源と結末を、神話・娯楽・哲学要素を交えながら述べたものであり、「バガヴァッドギター」はそのもつとも哲学的な部分である。それはパインドウ王家のアルジュナ王子とその師である牧神クリシュナの対話篇であり、前述のようにヒンドゥー教の聖典であって、そのテーマは運命的な義務である。クルク王家の領地（クルクシェートラ）での決戦を目前にして、アルジュナは思い悩む。パインドウとクルクは敵同士であると同時に同じバラタ王からわかれた親戚同士であり、異父兄、友人・知人がいる。戦いたくない。戦車の御者に扮した牧神クリシュナが諭す。敵となった人びとは、善悪の道徳的判断において誤りを犯した。悪に味方した者を暴力で粉砕し悪を止めることが善の義務である。我を捨て、運命に従え、戦えと。この「戦車上で対話する二人」はインド宗教絵画の重要なモチーフとなっている。

## 天かける戦士のイメージ

「バガヴァッドギター」にみられる骨肉の争いや暴力、運命への諦念などの諸要素は、ベトナム中部高原に住むバナの叙事詩群とも共通する。そのバナの古老たちは、バナの若者が、テレビやビデオのワイヤーアクションを使った中国歴史活劇に夢中になってしまい、叙事詩の需要が減ったと嘆く。いっぽうで、中国活劇の目玉である「天かける戦士たち」のイメージは、バナ叙事詩とそっくりだといふ。バナ叙事詩でも、戦士たちは空を自在にかけぬぐる。

なぜバナ叙事詩は「天かける戦士たち」のイメージを中国活劇と共有しているのか。中部高原の奥地にあるバナの地では、むかしから近隣諸民族とのあいだで塩交易が発達していた。バナの近隣には、チャンパサク地方のワットプー、ジャライ地方のヤーン・ムム、ヤーン・プランなど、ヒンドゥー教遺跡が存在する。チャンパー王国時代、バナの人びとはヒンドゥー教徒の交易者がもたらすヒンドゥー教の物語と歌を楽しみ、一四世紀以降、チャンパー王国とヒンドゥー教の衰退後も自己再生して楽しんでいたのではないだろうか。思えば中国活劇の元祖『西遊記』の「天かける猿」孫悟空にも『ラーマヤナ』の英雄猿ハヌマットの影響が濃くみられる。また『マハーバーラタ』には、孫悟空が乗る金斗雲の原型と思われる飛行戦車ヴィマナが登場する。中国活劇、インド叙事詩、バナ叙事詩が似ているのは偶然ではない。

## 英雄たちの覚悟と不覚悟

バナ叙事詩において強調されるのは、偉大な神々と称される祖先神たちから、強欲で、凶悪で、品性下劣な子孫が続々と生まれたり、もともと善良だった人びとが、突如魔が差して、殺人や強姦などの罪を犯し、憎しみ合い殺し合うようになったりすることこそ、避けようの無い厳然たる現実なのだという教訓あるいは覚悟である。「悪を討ち果たすことこそ運命」、叙事詩のなかで英雄たちは暗黒面に落ちた兄弟姉妹たちを命乞いの泣き声さえ無視して容赦なく殺していく。

しかし、『マハーバーラタ』のアルジュナはバナの英雄たちのような覚悟はできていない。アルジュナは逡巡・躊躇の末、クリシュナに「されば、いざたて、アルジュナよ」と一喝されてようやく覚悟する。それがヒンドゥーのヒューマニズムなのだろうか。筆者はアルジュナの良心に敬意を覚えると共に、その士道不覚悟ぶりに違和感も覚え、複雑な心境であった。



デリー市内で「ホーチミン（胡志明）公路」の表示を発見。インドとベトナムの友好的証だが、ホー（胡）のスペルが Ho ではなく Hoi と誤っているのが残念



クルクシェートラ沐浴場にある「戦車上で対話する二人」の巨大彫刻



バナの集会所「ホナム・ロング」。ベトナム中部高原でバナだけが見事な高層建築をつくる。バナ叙事詩もこのようなホナム・ロングにおいて囲炉裏端で語られる。



クルクシェートラ沐浴場内にある沐浴場の名は、いずれも主要な英雄名を冠する。写真はアルジュナ沐浴場の入口